

令和5〔2023〕年

広島県観光客数の動向

令和6年8月

一般社団法人広島県観光連盟(HIT)

目 次

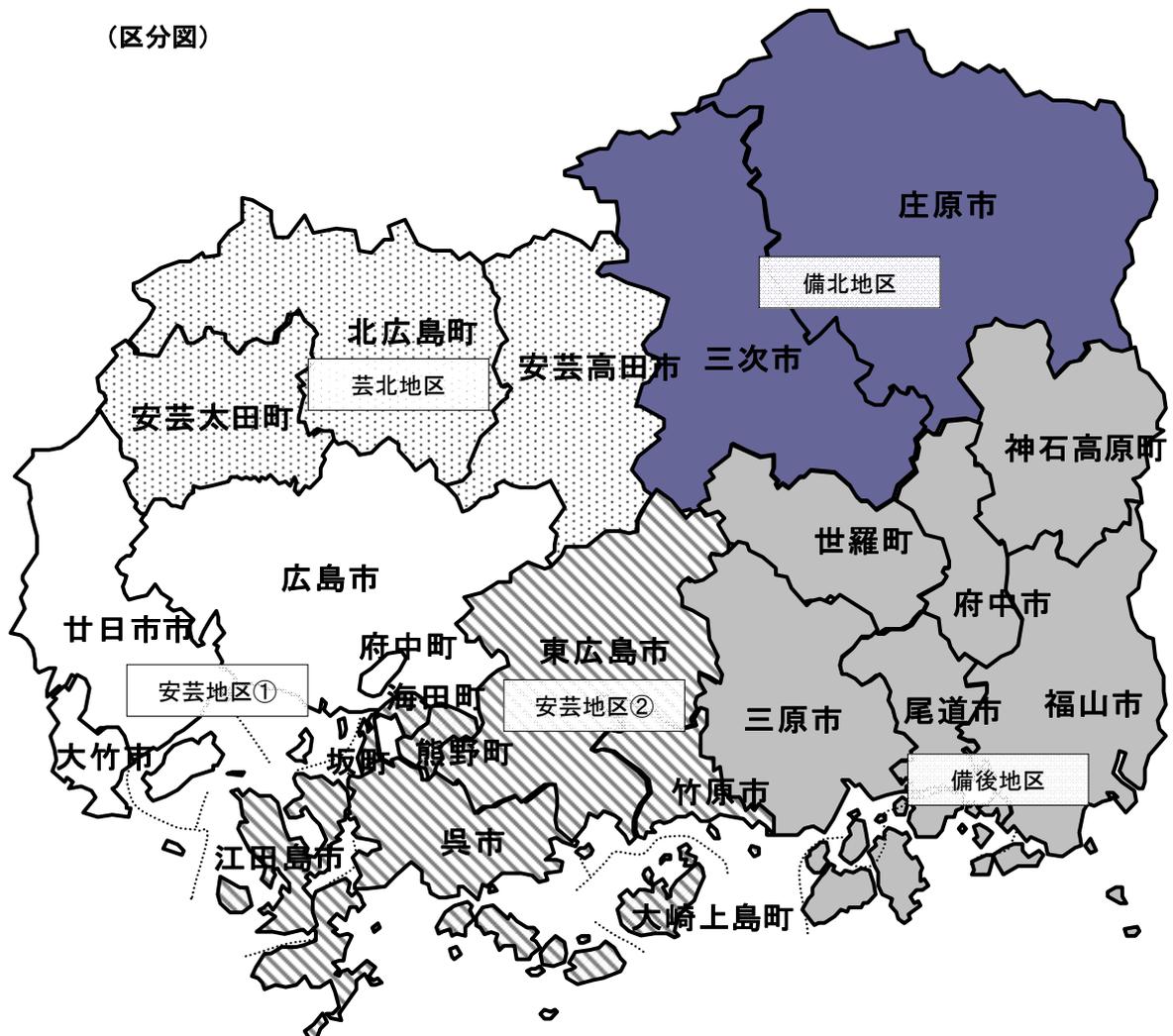
I 調査の概要	1
II 調査結果の概要	2
1 観光客数の状況	2
(1) 総観光客数の概況	2
(2) 地区別観光客数の状況	3
(3) 発地別観光客数の状況	6
(4) 目的別観光客数の状況	12
(5) 旅行形態別観光客数の状況	13
(6) 交通機関別観光客数の状況	15
(7) 月別観光客数の状況	16
2 外国人観光客数の状況	17
(1) 外国人観光客数の概況	17
(2) 市場別外国人観光客数の状況	18
3 宿泊客数の状況	20
(1) 宿泊客数の概況	20
(2) 地区別宿泊客数の状況	20
(3) 月別宿泊客数の状況	22
4 観光消費額の状況	23
III 観光客数統計表	24
第1表 総観光客数の推移	
第2表 令和5年発地別観光客数と観光消費額	
第3表 令和5年目的別観光客数	
第4表 令和5年旅行形態別・交通機関別観光客数	
第5表 令和5年月別観光客数	
第6表 令和5年県内主要・有料観光施設の月別利用状況	
第7表 令和5年市場別外国人観光客数	
第8表 令和5年月別宿泊客数	

I 調査の概要

この調査は、本県の観光客数、観光消費額等の実態を把握し、観光振興施策の立案、実施に当たっての基礎資料とすることを目的として、市町の協力を得て毎年実施しており、市町ごとに観光客数、発地、目的、形態、利用交通機関、外国人観光客数、宿泊客数、観光消費額等について調査したものである。

- 1 この調査は、各市町等が令和5年1月から12月までの1年間（暦年）の当該市町の観光客数等を推計し、一般社団法人広島県観光連盟で取りまとめたものである。
- 2 各市町の観光客数及び宿泊客数は、延べ人数である。
- 3 掲載した図・表の数値については、単位未満の端数処理を行っているため、観光客数統計表の数値と一致しない場合がある。また、観光客数統計表の数値についても同様であり、表内の項目計や表間で一致しない場合がある。
- 4 観光客数の状況等を地区別にみるため、下記の5地区に区分して整理している。

(区分図)



Ⅱ 調査結果の概要

1 観光客数の状況

(1) 総観光客数の概況

① 令和5年の総観光客数

令和5年の総観光客数は6,037万人で、前年と比べて1,129万人(+23.0%)増加した。

令和5年は、全国的な物価高の影響があったものの、全国旅行支援の実施や新型コロナの5類移行による行動制限の緩和により観光需要の回復が本格化した。G7広島サミットの開催、県内大型イベントの通常開催、国際線就航便の再開や円安などにより、2年連続の増加となった。なお、コロナ前の令和元(平成31)年と比べると、683万人(▲10.2%)の減少となり、コロナ前の9割まで観光客数が回復している。

図表1-1 総観光客数の比較

(単位：万人)

区分	平成31 (令和元年)	令和4年	令和5年	増減数 R5-R4	増減率 R5/R4	増減数 R5-R元(H31)	増減率 R5/R元(H31)
総観光客数	6,719	4,907	6,037	+1,129	+23.0%	▲683	▲10.2%

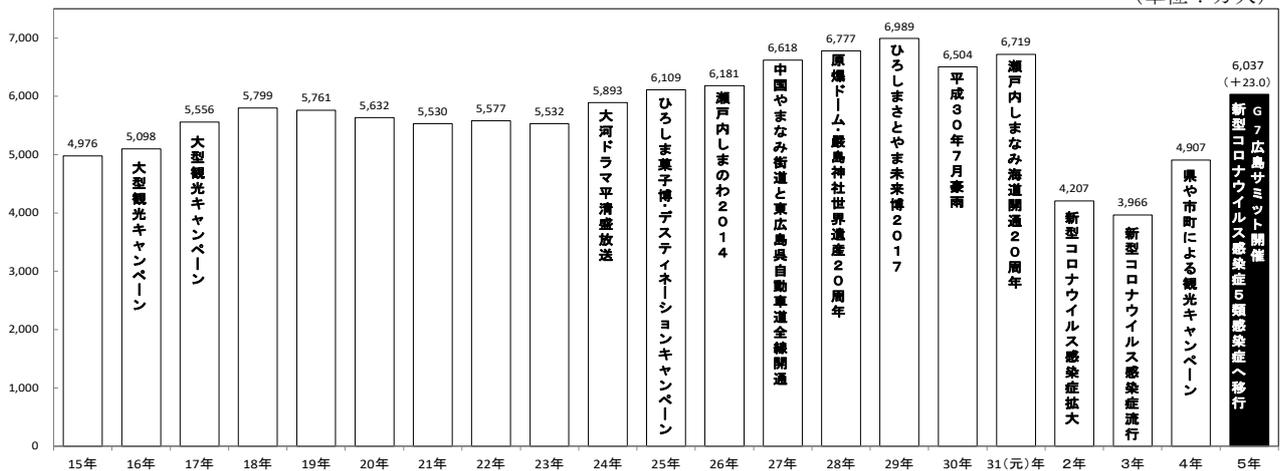
② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成25年に初めて6,000万人を突破した後、平成29年まで6年連続で過去最高を更新しており、順調に推移していたが、平成30年は西日本豪雨災害等の影響により前年を6.9%下回ることとなった。

平成31(令和元)年は回復に転じたものの、令和2年以降、新型コロナの世界的拡大により大幅に減少した。令和4年、令和5年は、新型コロナによる行動制限の緩和や、県や市町による観光キャンペーン等により2年連続の増加となっている。

図表1-2 総観光客数の推移

(単位：万人)



(単位：万人)

区分	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
総観光客数	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632	5,530	5,577	5,532	5,893
対前年増減率		▲1.7%	2.5%	9.0%	4.4%	▲0.7%	▲2.2%	▲1.8%	0.8%	▲0.8%

区分	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31(元)年	2年	3年	4年	5年
総観光客数	6,109	6,181	6,618	6,777	6,989	6,504	6,719	4,207	3,966	4,907	6,037
対前年増減率		3.7%	1.2%	7.1%	2.4%	3.1%	▲6.9%	3.3%	▲37.4%	▲5.7%	23.7%

(2) 地区別観光客数の状況

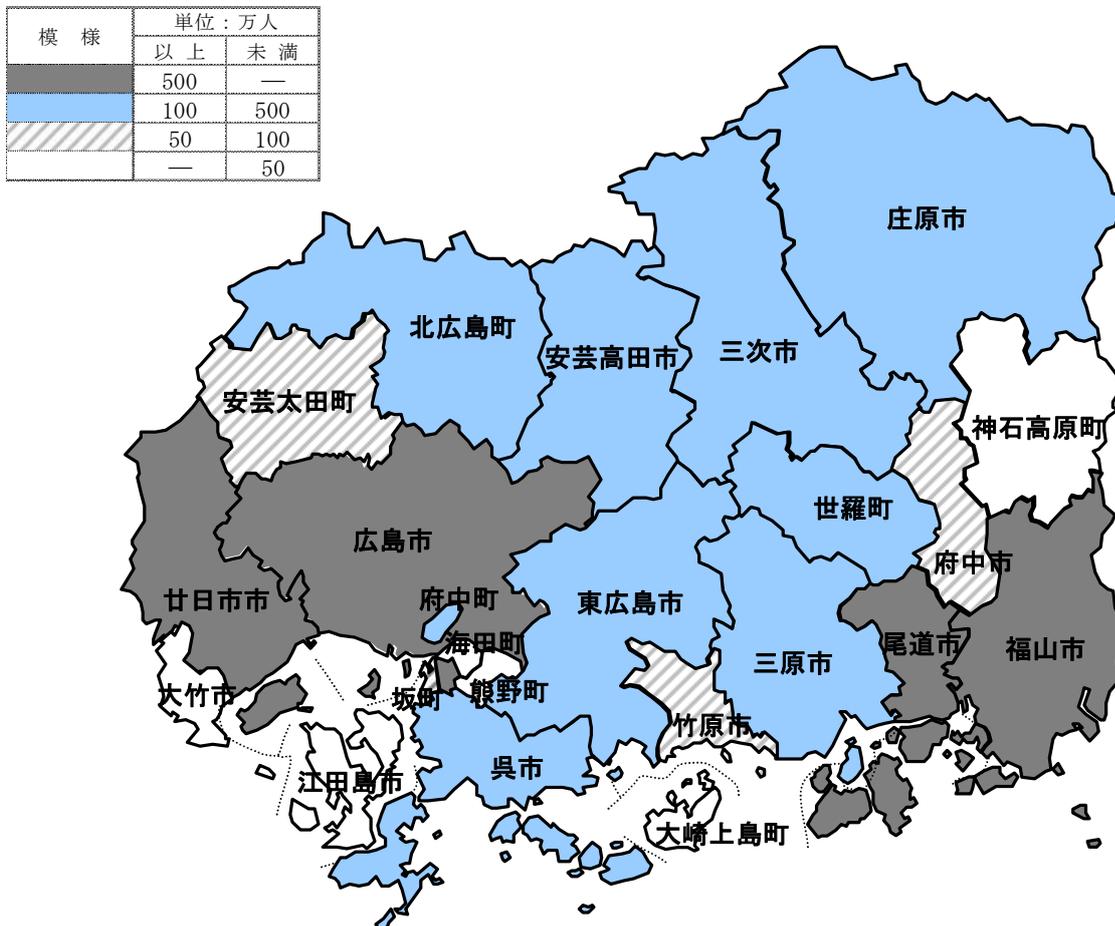
① 市町別観光客数の状況

市町別にみると、総観光客数が500万人以上の広島市、廿日市市、尾道市、福山市をはじめ、22市町において前年より増加している。

図表 1-3 市町別観光客数の増減一覧

総観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市、廿日市市、尾道市、福山市	
100～500 万人未満	9 市町	三原市、東広島市、呉市、安芸高田市、世羅町、三次市、北広島町、庄原市、府中町	
50～100 万人未満	4 市町	府中市、竹原市、安芸太田町、坂町	
50 万人未満	6 市町	神石高原町、江田島市、大竹市、熊野町、大崎上島町	海田町

図表 1-4 市町別観光客数の状況



② 市町別観光客数の順位（上位 10 市町）

観光客数を市町別にみると、上位 5 位となった市町に大きな変動はないが、全体的に増加傾向にあり、前年と比べて、2 位の廿日市市は 266 万人（+49.6%）、7 位の呉市は 97 万人（+45.8%）、10 位の三次市は 23 万人（+11.8%）増加し、順位が上昇した。

また、コロナ前の平成 31（令和元）年と比べると、依然として減少している市町が大半を占めるものの、廿日市市（+1.6%）、東広島市（+30.6%）、安芸高田市（+27.8%）など増加した市町もあった。

図表 1-5 市町別観光客数の順位（令和 5 年上位 10 市町）

（単位：万人、%）

順位	市町名	平成 31 (令和元)年	令和 4 年	令和 5 年	増減数 R5-R4	増減率 R5/R4	増減数 R5-R 元(H31)	増減率 R5/R 元(H31)	R4 順位
1 位	広島市	1,621	1,055	1,324	+269	+25.5%	▲297	▲18.3%	1 位
2 位	廿日市市	791	537	803	+266	+49.6%	+12	+1.6%	3 位
3 位	尾道市	683	566	658	+93	+16.4%	▲24	▲3.6%	2 位
4 位	福山市	630	436	530	+94	+21.6%	▲100	▲15.9%	4 位
5 位	三原市	416	285	368	+83	+29.1%	▲48	▲11.6%	5 位
6 位	東広島市	281	282	368	+86	+30.3%	+86	+30.6%	6 位
7 位	呉市	376	212	309	+97	+45.8%	▲68	▲17.9%	9 位
8 位	安芸高田市	177	217	226	+9	+4.1%	+49	+27.8%	8 位
9 位	世羅町	229	218	224	+6	+2.5%	▲6	▲2.5%	7 位
10 位	三次市	348	192	215	+23	+11.8%	▲133	▲38.2%	12 位

対前年増減率についてみると、県全体の増加率は+23.0%であったが、それより増加率が大きい市町は 8 市町、県全体よりも増加率が小さい市町（減少した市町を含む）は 15 市町となった。

県全体の増加率よりも増加率が大きい市町は、坂町（+102.5%）、廿日市市（+49.6%）や呉市（+45.8%）など、都市部周辺に位置する安芸地区の市町が多い。

図表 1-6 市町別観光客数の対前年増減率一覧

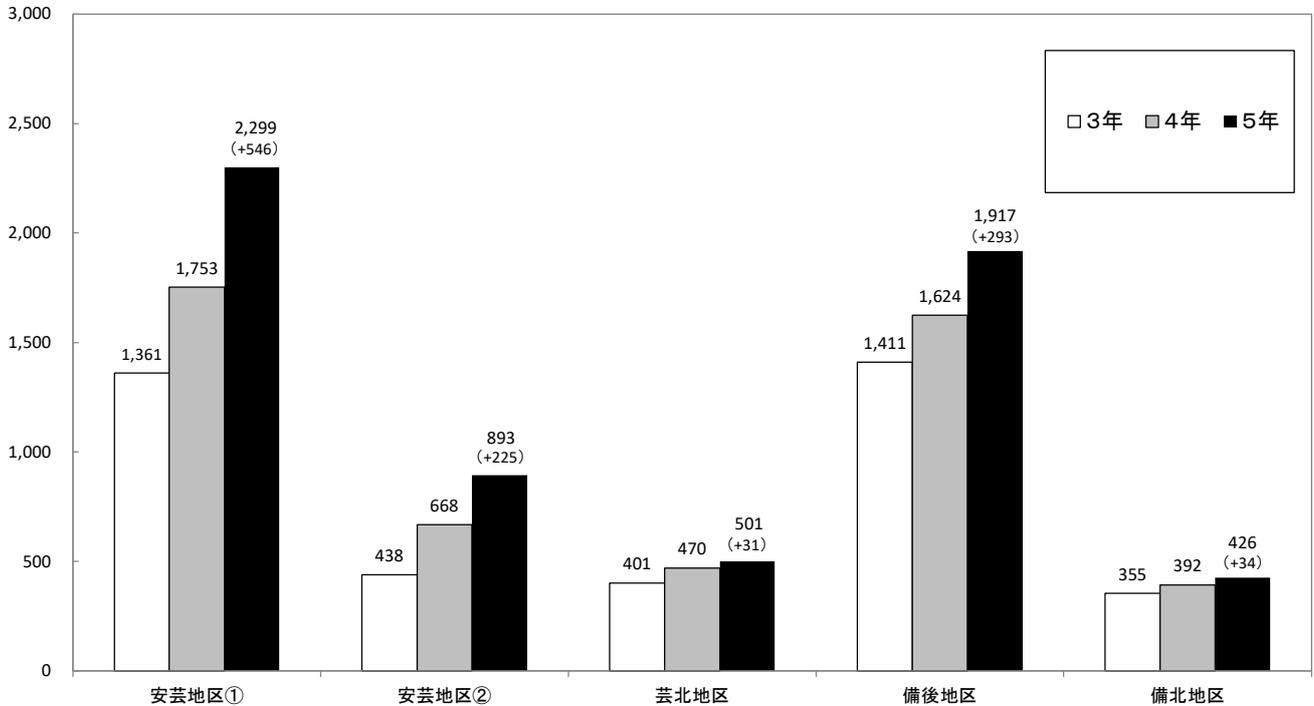
区分	市町数	市町名	対前年増減率
県全体の平均よりも 増加率が高い市町	8市町	坂 町	+102.5%
		廿 日 市 市	+49.6%
		呉 市 市	+45.8%
		東 広 島 市	+30.3%
		大 竹 市 市	+29.9%
		三 原 市 市	+29.1%
		熊 野 町 町	+25.6%
		広 島 市 市	+25.5%
県全体の平均よりも 増加率が小さい市町	15市町	福 山 市 市	+21.6%
		大 崎 上 島 町 町	+20.7%
		神 石 高 原 町 町	+18.8%
		尾 道 市 市	+16.4%
		竹 原 市 市	+14.2%
		府 中 市 市	+13.0%
		安 芸 太 田 町 町	+12.4%
		三 次 市 市	+11.8%
		北 広 島 町 町	+7.9%
		庄 原 市 市	+5.7%
		江 田 島 市 市	+5.6%
		安 芸 高 田 市 市	+4.1%
		世 羅 町 町	+2.5%
		府 中 町 町	+1.4%
海 田 町 町	▲ 2.0%		
(参考) 県全体の平均			+23.0%

③ 地区別観光客数の状況

観光客数を地区別で見ると、全地区で前年よりも増加となった。特に、安芸地区②が+33.7% (+225 万人) で最も増加率が大きく、次いで安芸地区①が+31.1% (+546 万人) となっている。

図表 1-7 地区別観光客数の推移

(単位：万人)



(3) 発地別観光客数の状況

① 県内・県外別観光客数の状況

県内観光客（地元観光客を含む）数は、前年と比べて308万人増の2,989万人（+11.5%）、県外観光客数は821万人増の3,048万人（+36.9%）であった。構成比で見ると、県内観光客は49.5%、県外観光客は50.5%となっており、県内観光客よりも県外観光客の方が多くなった。

図表 1-8 県内・県外別観光客数の比較

(単位：万人)

区分	平成31(令和元)年 観光客数 (構成比)	令和4年 観光客数 (構成比)	令和5年 観光客数 (構成比)	増減数 R5-R4	増減率 R5/R4	増減数 R5-R元(H31)	増減率 R5/R元(H31)
県内	3,403 (50.6%)	2,681 (54.6%)	2,989 (49.5%)	+308	+11.5%	▲414	▲12.2%
県外	3,316 (49.4%)	2,226 (45.4%)	3,048 (50.5%)	+821	+36.9%	▲269	▲8.1%

なお、県全体の観光客のうち、市町内（地元）観光客及び市町外観光客の構成比は、前年と比べてそれぞれ微減となり、令和5年の構成比は、市町内（地元）観光客が19.9%（前年比▲3.4%）、市町外観光客が29.6%（前年比▲1.7%）となっている。

また、令和5年の構成比を、コロナ前の平成31（令和元）年と比べると、市町内（地元）観光客は3.2%減、市町外観光客は2.0%増、県外観光客は1.1%増となった。全国旅行支援の実施や新型コロナに伴う行動制限の緩和などから、市町外、県外といった比較的遠距離の旅行割合が増加した。

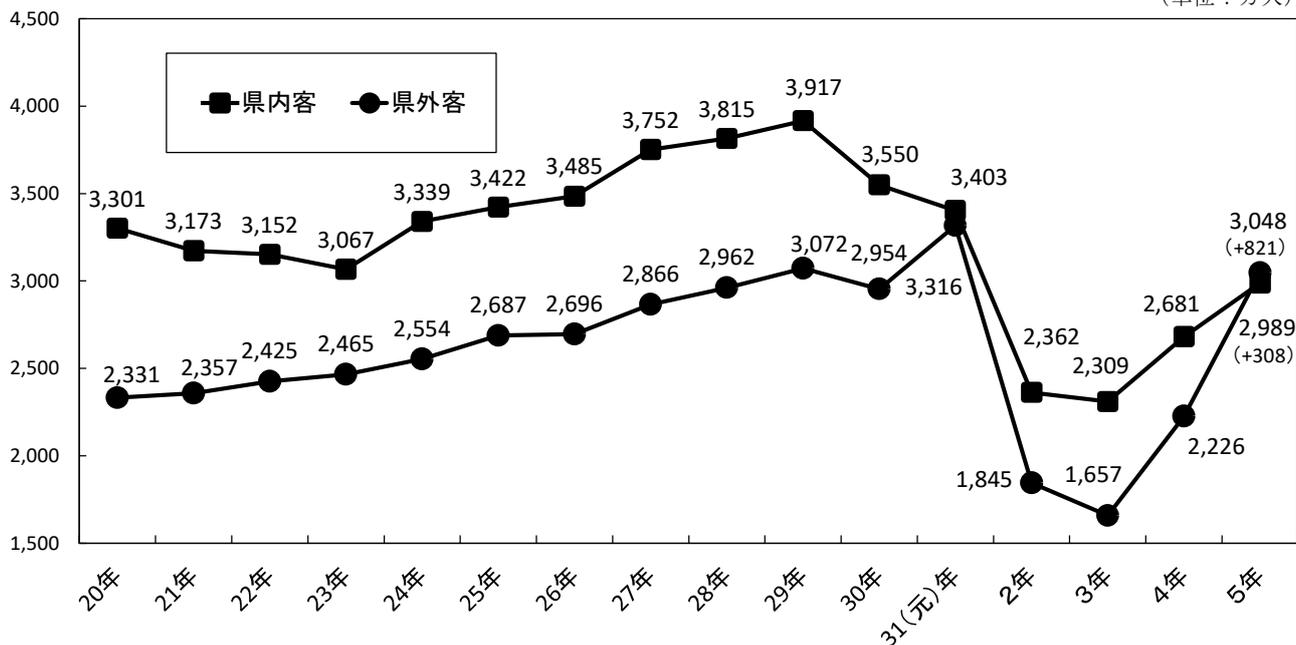
図表1-9 市町内・市町外・県内外別観光客数の推移

（単位：万人）

区分	年次	県内観光客			計	県外観光客	総観光客数
		市町内（地元） 観光客	市町外観光客				
		(A)	(B)	(A)+(B)			
実 績	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	5,632	
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	5,530	
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	5,577	
	23年	1,508	1,559	3,067	2,465	5,532	
	24年	1,636	1,703	3,339	2,554	5,893	
	25年	1,690	1,732	3,422	2,687	6,109	
	26年	1,737	1,748	3,485	2,696	6,181	
	27年	1,863	1,889	3,752	2,866	6,618	
	28年	1,897	1,918	3,815	2,962	6,777	
	29年	1,981	1,936	3,917	3,072	6,989	
	30年	1,750	1,800	3,550	2,954	6,504	
	31(元)年	1,549	1,854	3,403	3,316	6,719	
	2年	996	1,367	2,362	1,845	4,207	
	3年	976	1,333	2,309	1,657	3,966	
	4年	1,145	1,536	2,681	2,226	4,907	
5年	1,202	1,787	2,989	3,048	6,037		
構 成 比	20年	25.1%	33.5%	58.6%	41.4%	100.0%	
	21年	25.8%	31.6%	57.4%	42.6%	100.0%	
	22年	26.2%	30.3%	56.5%	43.5%	100.0%	
	23年	27.3%	28.2%	55.4%	44.6%	100.0%	
	24年	27.8%	28.9%	56.7%	43.3%	100.0%	
	25年	27.7%	28.4%	56.0%	44.0%	100.0%	
	26年	28.1%	28.3%	56.4%	43.6%	100.0%	
	27年	28.2%	28.5%	56.7%	43.3%	100.0%	
	28年	28.0%	28.3%	56.3%	43.7%	100.0%	
	29年	28.3%	27.7%	56.0%	44.0%	100.0%	
	30年	26.9%	27.7%	54.6%	45.4%	100.0%	
	31(元)年	23.1%	27.6%	50.6%	49.4%	100.0%	
	2年	23.7%	32.5%	56.2%	43.8%	100.0%	
	3年	24.6%	33.6%	58.2%	41.8%	100.0%	
	4年	23.3%	31.3%	54.6%	45.4%	100.0%	
5年	19.9%	29.6%	49.5%	50.5%	100.0%		

図表1-10 県内・県外別観光客数の推移

(単位：万人)

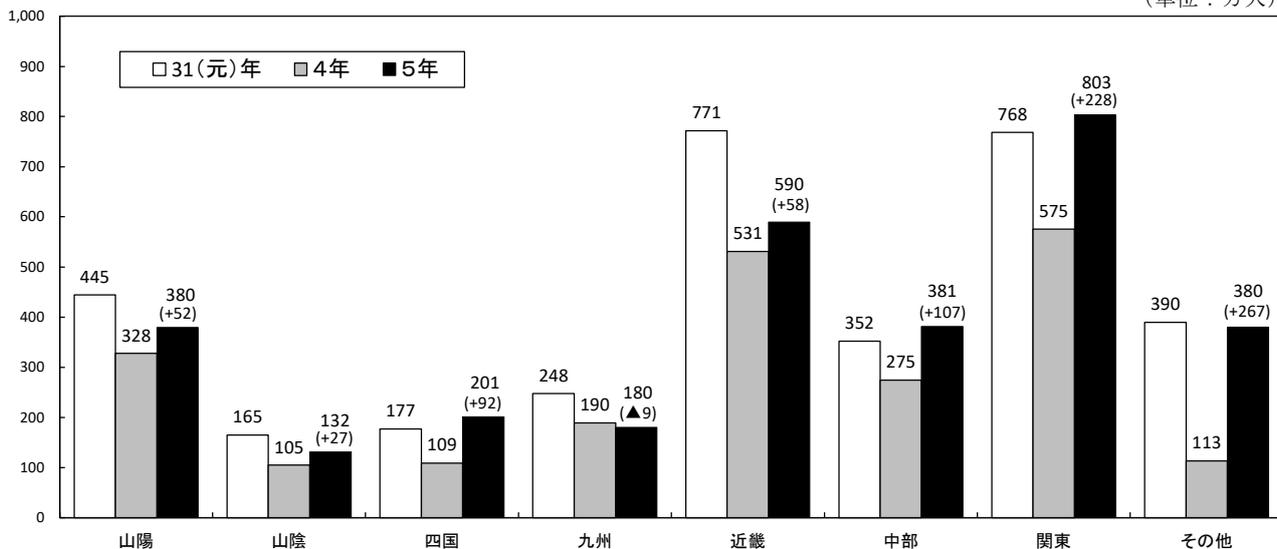


② 発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数は、関東地方が最も多く 803 万人 (+228 万人) となった。前年と比べて最も増加率が高いのは、その他 235.4% (+267 万人) で、主な要因としては、水際対策の終了や国際線就航便の再開、円安などの影響による外国人観光客の増加が寄与している。

図表1-11 発地エリア別観光客数の推移

(単位：万人)



県外客の発地エリア別観光客数の割合は、最も観光客数の多い関東地方が26.4%、続いて近畿地方が19.3%であり、この2エリアの合計(45.7%)で半数近くを占めた。以下、「山陽」「中部」「四国」「九州」「山陰」「(その他)」を除く)の順となった。

図表1-12 発地エリア別観光客数の割合

区分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
31(元)年	13.4%	5.0%	5.3%	7.5%	23.3%	10.6%	23.2%	11.7%
4年	14.7%	4.7%	4.9%	8.5%	23.9%	12.3%	25.8%	5.1%
5年	12.5%	4.3%	6.6%	5.9%	19.3%	12.5%	26.4%	12.5%

③ 地区別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数を地区別にみると、県南部に当たる安芸地区及び備後地区では近畿地方、関東地方からの割合が高く、県北部の芸北地区及び備北地区においては、山陽地方、山陰地方からの割合が高くなっている。

なお、船舶等でアクセスのしやすい安芸地区②においては、四国地方からの割合が比較的高い。

図表1-13 地区別・発地エリア別観光客数の割合

区分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
県全体	12.5%	4.3%	6.6%	5.9%	19.3%	12.5%	26.4%	12.5%
安芸地区①	5.5%	2.0%	5.4%	4.9%	17.1%	15.3%	32.2%	17.7%
安芸地区②	17.5%	7.6%	11.7%	8.7%	19.6%	13.4%	15.0%	6.5%
芸北地区	55.2%	17.1%	4.1%	14.8%	4.4%	1.1%	2.8%	0.6%
備後地区	17.9%	4.0%	7.2%	5.9%	25.4%	9.1%	23.5%	7.0%
備北地区	31.8%	30.3%	7.8%	8.4%	12.9%	2.1%	5.4%	1.3%

④ 市町別にみた県内・県外観光客数の状況

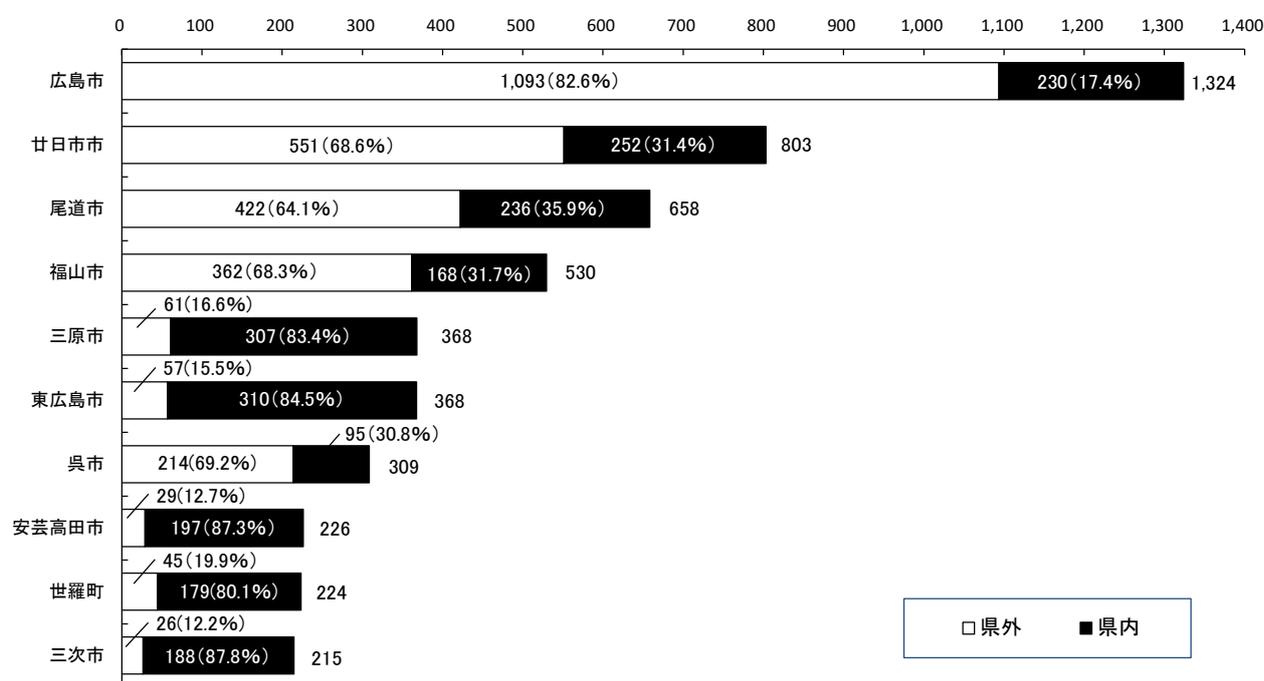
総観光客数の上位4市においては、県外観光客が多い傾向にある。

総観光客数の上位10市町の中で、県外観光客が最も多いのは広島市で1,093万人となっており、県外観光客の割合が県全体の平均50.4%を上回っているのは、広島市(82.6%)、廿日市市(68.6%)、尾道市(64.1%)、福山市(68.3%)、呉市(69.2%)の5市であった。

一方、総観光客数の上位10市町の中で、県内観光客の割合が最も大きいのは三次市(87.8%)、次いで安芸高田市(87.3%)であった。沿岸部の市町においては県外観光客の割合が大きく、県央及び県北に位置する市町においては県内観光客の割合が大きい傾向にある。

図表1-14 市町別・県内・県外別観光客数の状況(上位10市町)

(単位：万人)



⑤ 市町別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外からの観光客数が多い上位5市は、全て沿岸部に位置する市となった。広島市、廿日市市、尾道市については、関東地方からの割合が最も大きい、その他2市においては、近畿地方からの割合が最も大きい。

なお、関東地方からの観光客の割合はいずれの市も比較的高いが、呉市については、四国からの割合が高くなっている。

図表1-15 市町別・発地エリア別観光客数の割合(県外客数上位5市)

区分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
広島市	3.0%	1.0%	5.8%	4.8%	15.4%	16.4%	36.3%	17.3%
廿日市市	7.7%	3.7%	4.7%	5.1%	20.9%	13.6%	25.4%	18.9%
尾道市	9.4%	2.3%	4.9%	6.5%	25.5%	12.6%	25.8%	12.9%
福山市	16.4%	2.5%	8.0%	5.3%	30.7%	7.8%	27.4%	1.9%
呉市	12.2%	4.1%	11.6%	10.2%	20.7%	17.7%	15.9%	7.6%

(4) 目的別観光客数の状況

目的別にみると、前年までに続き、「都市観光」の割合（46.4%）が最も大きいものの、「ショッピング、レストラン等」「博物館、美術等」ともに、前年と比べて割合は低下した。

なお、県内の主要な祭りや花火大会等のイベントが再開したことにより、「祭、行事」の割合が前年と比べて7.0%増加しているが、平成31（令和元）年と比べると3.9%減少している。

図表1-16 目的別観光客数の割合(上位10項目)

区分	都市観光		祭、行事	神社、仏閣	自然探勝	その他スポーツ	大規模公園、レクリエーション施設等	温泉	ハイキング、登山、キャンプ	産業観光
	ショッピング、レストラン等	博物館、美術館等								
31(元)年	21.4%	18.3%	15.7%	7.9%	5.0%	6.3%	7.7%	3.6%	2.5%	2.2%
4年	32.1%	19.7%	4.8%	6.6%	5.4%	6.5%	7.1%	3.2%	3.0%	2.3%
5年	27.4%	19.0%	11.8%	8.7%	5.9%	5.5%	4.4%	2.8%	2.8%	2.0%

(注) 都市観光：都市を見たり、都市で学んだりすることを目的としたもの（博物館、美術館等）：美術館、博物館、動・植物園、水族館等
 (ショッピング、レストラン等)：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等

地区別に目的別観光客の割合をみると、すべての地区において「都市観光」の割合が最も高く、特に安芸地区①では「博物館、美術館等」、芸北地区では「ショッピング、レストラン等」の割合が大きくなった。

「都市観光」以外では、安芸地区及び備後地区の「祭、行事」、安芸地区①の「神社、仏閣」、備北地区の「自然探勝」等の割合が高く、各地区における観光プロダクトの特色が表れている。

図表1-17 地区別・目的別観光客数の割合(上位10項目)

区分	都市観光		祭、 行事	神社、 仏閣	自然 探勝	その他 スポーツ	大規模 公園、 レクリエーション 施設等	温泉	ハイキング、 登山、 キャンプ	産業 観光
	ホテル、 レストラン 等	博物館、 美術館 等								
県全体	27.4%	19.0%	11.8%	8.7%	5.9%	5.5%	4.4%	2.8%	2.8%	2.0%
安芸地区①	12.5%	37.2%	17.1%	16.5%	2.7%	2.1%	3.8%	1.4%	3.8%	1.6%
安芸地区②	27.3%	17.9%	13.4%	0.0%	3.3%	10.8%	10.9%	4.3%	1.3%	4.5%
芸北地区	57.6%	0.5%	3.3%	0.1%	7.8%	10.1%	0.0%	3.8%	2.3%	1.0%
備後地区	36.0%	5.9%	8.5%	7.3%	7.2%	4.5%	3.2%	2.7%	1.8%	2.0%
備北地区	34.1%	3.1%	4.7%	0.6%	20.8%	12.0%	4.6%	7.7%	4.9%	0.0%

(5) 旅行形態別観光客数の状況

観光客を一般客、団体客、修学旅行者^(註)別にみると、一般客は前年から1,005万人増加して5,422万人、団体客は114万人増加して539万人となった。

修学旅行者については、10万人増加して76万人であった。平成31(令和元)年までは毎年一定数を維持していたが、令和2年以降については、新型コロナウイルスによる目的地変更、キャンセル及び延期等が影響し、大きく減少していた。令和4年は、延期となった旅行の催行などにより平成31(令和元)年を上回った。令和5年は、全国旅行支援やG7広島サミットの開催効果などにより、前年より増加した。

構成比でみると、県全体では一般客が約9割を占めている。エリア別にみると、安芸地区および備北地区では比較的団体客の構成比が高いほか、安芸地区①については、修学旅行者の構成比も高い。

なお、推移でみると、年々増加傾向にあった一般客は令和2年以降大幅に減少した後、令和4年以降は2年連続で増加したものの、コロナ前の平成31(令和元)年の水準までには至っていない。

図表1-18 地区別・旅行形態別観光客数及び構成比

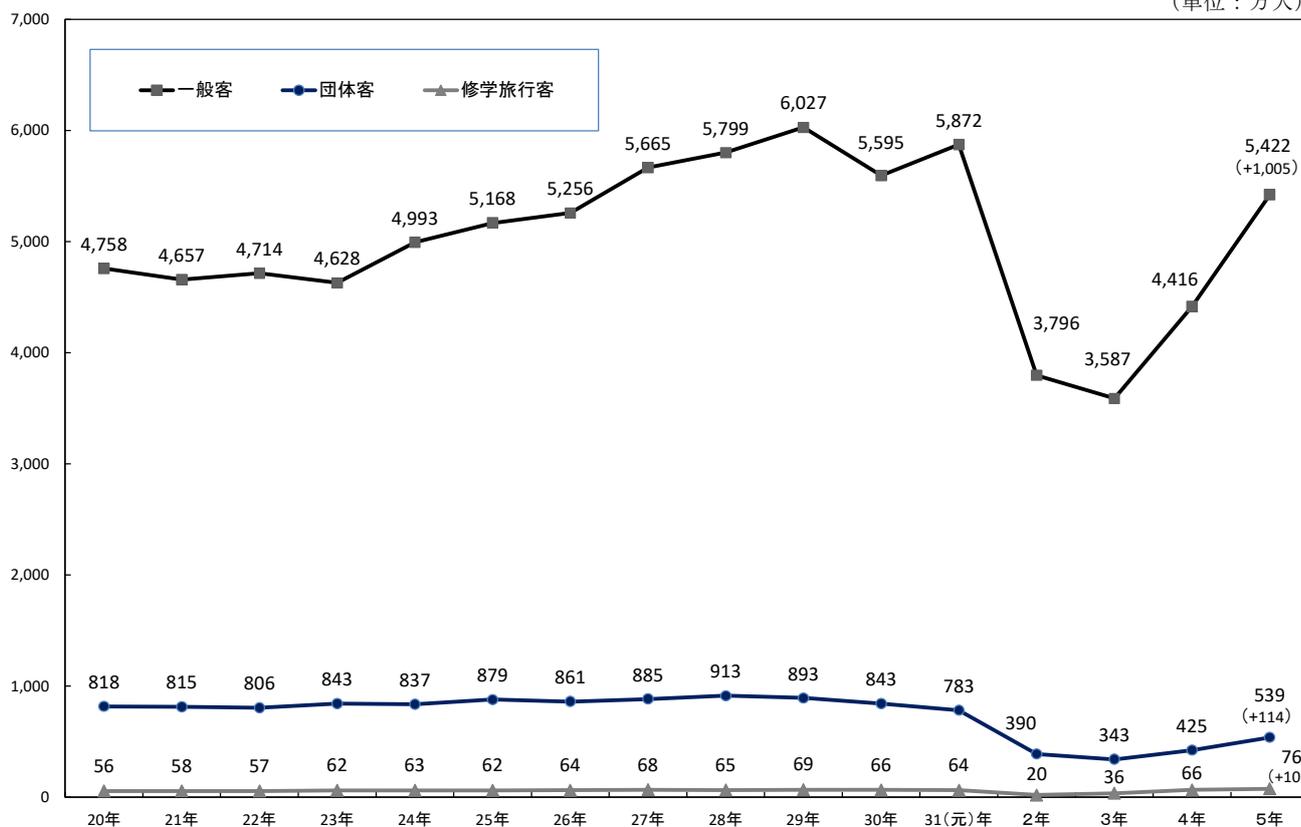
(単位：万人)

区分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	5,422	89.8%	539	8.9%	76	1.3%
安芸地区①	2,000	87.0%	234	10.2%	65	2.8%
安芸地区②	805	90.1%	84	9.4%	5	0.5%
芸北地区	457	91.3%	43	8.7%	0	0.1%
備後地区	1,773	92.5%	139	7.2%	6	0.3%
備北地区	388	91.0%	38	9.0%	0	0.0%

(注) 一般客：団体客、修学旅行者以外の旅行者、団体客：10人以上の団体旅行者

図表1-19 旅行形態別観光客数の推移

(単位：万人)



(6) 交通機関別観光客数の状況

令和5年の交通機関別観光客数をみると、自家用車利用者が3,423万人と最も多く、観光客全体の56.7%を占めている。次いで、鉄道利用者が1,133万人、船舶利用者が672万人、バス利用者が514万人、航空機利用者が35万人であった。

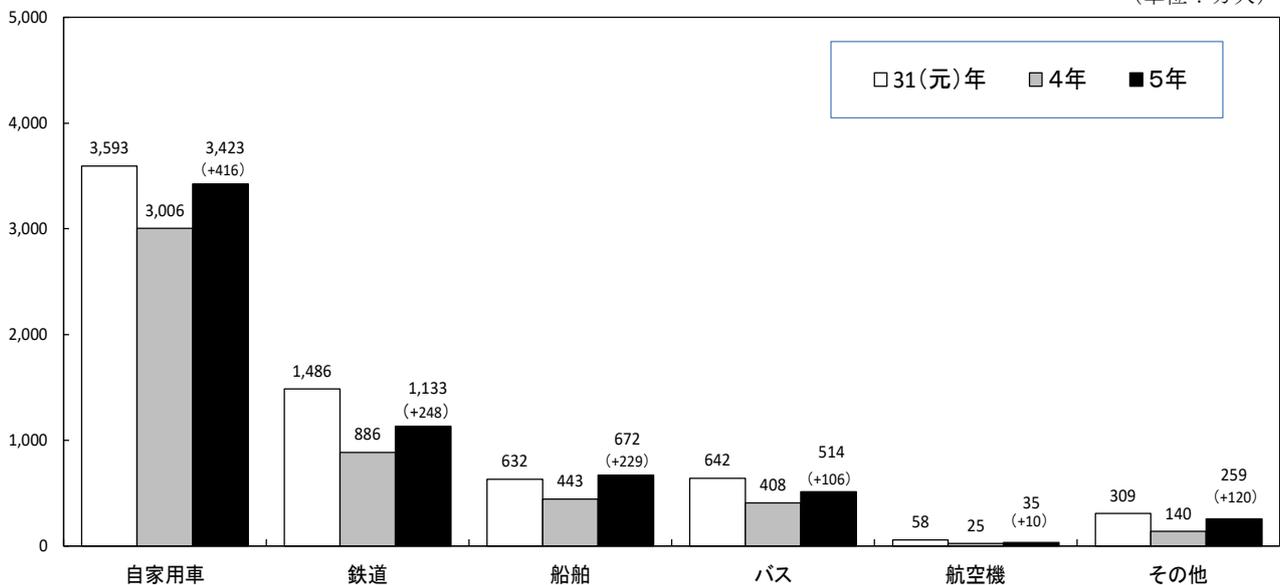
新型コロナが流行していた令和2～3年は感染症対策への意識の高まりにより、自家用車利用者の割合が増加し、その他の交通機関の割合はいずれも減少していたが、令和4年からはコロナ前の利用状況に戻る兆しがみられており、令和5年は前年に引き続き自家用車利用者の割合が減少（▲4.6%）し、その他の交通機関の割合は微増となった。船舶については、平成31（令和元）年よりも1.7%増加となった。

図表1-20 交通機関別観光客数の構成比

区分	自家用車	鉄道	船舶	バス	航空機	その他
31(元)年	53.5%	22.1%	9.4%	9.6%	0.9%	4.6%
4年	61.3%	18.0%	9.0%	8.3%	0.5%	2.8%
5年	56.7%	18.8%	11.1%	8.5%	0.6%	4.3%

図表1-21 交通機関別観光客数の推移

(単位：万人)



(7) 月別観光客数の状況

令和5年の月別観光客数は、年間を通して前年より増加した。

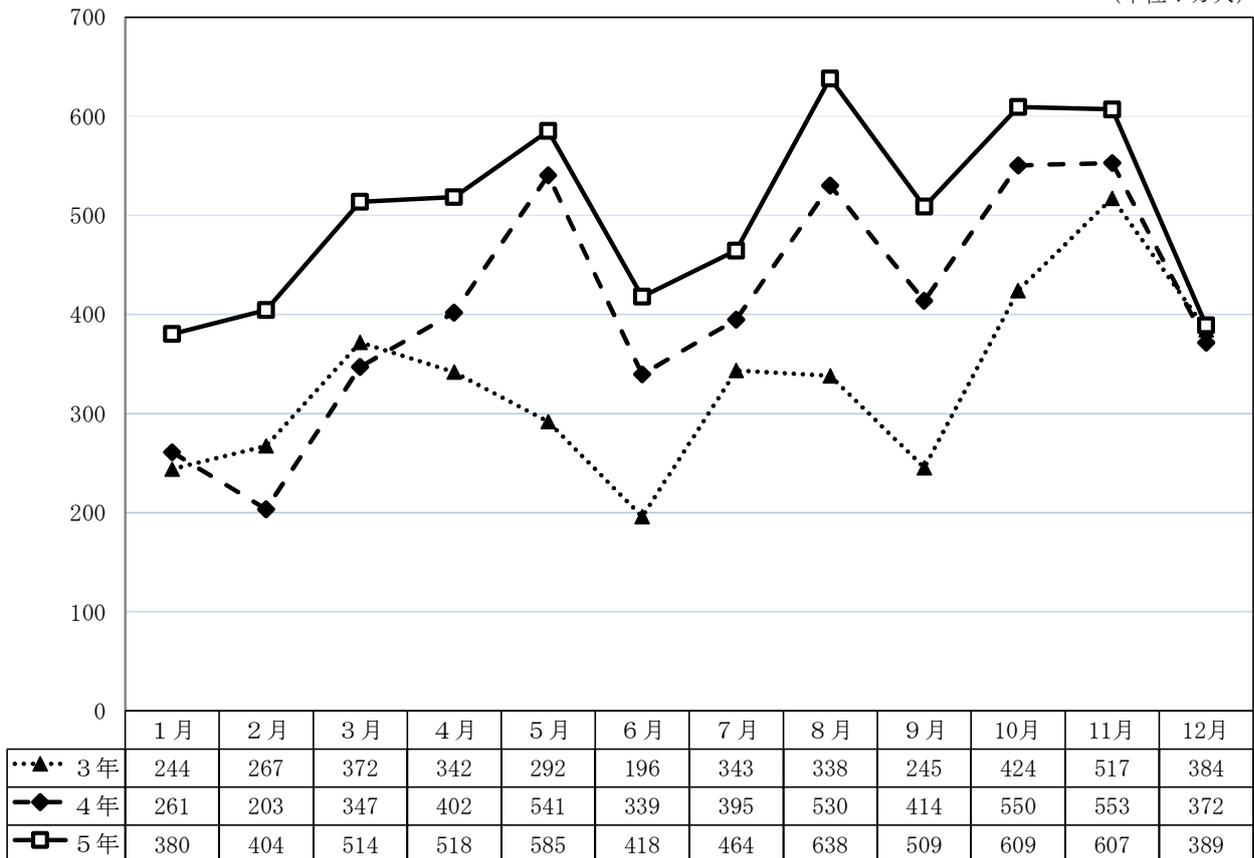
1月～3月については新型コロナの第6波を受けた前年と比べて、全国旅行支援の実施などが影響し、1月は45.7%増(380万人)、2月は98.8%増(404万人)、3月は48.0%増(514万人)となった。

4～5月にかけては、5月のG7広島サミットの開催により交通規制等があったものの、水際対策の終了や新型コロナが5類感染症へと移行したことによる行動規制の緩和、大型イベントが通常開催されたことなどが影響し、前年と比べて4月は29.0%増(518万人)、5月は8.2%増(585万人)、となった。

6月以降は、修学旅行客の回復、国際線就航便の再開などが影響し、6月は23.1%増(418万人)、7月は17.6%増(464万人)、8月は20.5%増(638万人)、9月は23.0%増(509万人)、10月は10.7%増(609万人)、11月は9.8%増(607万人)、12月は4.7%増(389万人)となった。

図表1-22 月別観光客数の推移

(単位：万人)



2 外国人観光客数の状況

(1) 外国人観光客数の概況

外国人観光客数については、平成 31（令和元）年まで 8 年連続で過去最高を更新していたが、令和 2 年は 9 年ぶりに減少に転じ、以降は、新型インフルエンザが発生した平成 21 年の 51.3 万人や、東日本大震災が発生した 48.7 万人などを下回る結果となっていた。

令和 5 年の外国人観光客数は、水際対策の終了や、G 7 広島サミットの開催効果、継続的な円安などが影響し、前年と比べて 252.6 万人（+1,622.4%）増の 268.1 万人となったが、コロナ前の平成 31（令和元）年と比べると 7.9 万人（▲2.8%）減少している。

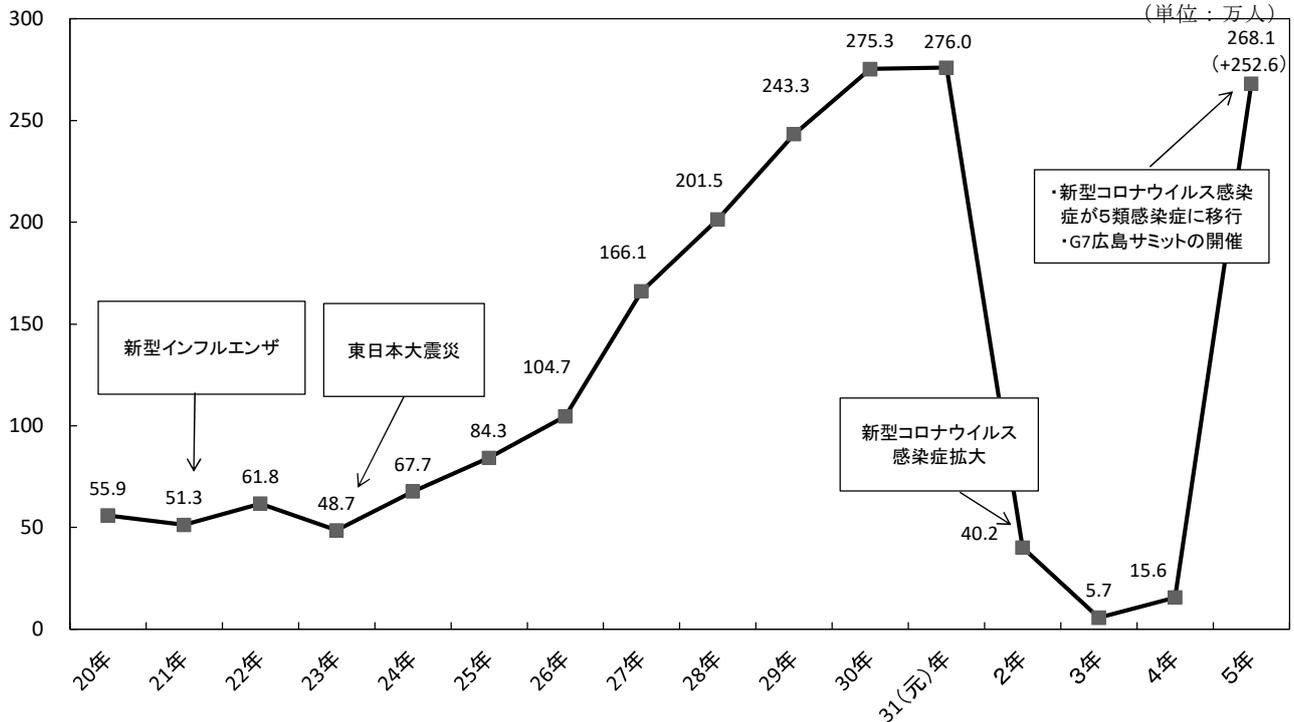
図表 2-1 外国人観光客数の比較

(単位：万人)

区 分	平成 31 (令和元)年	令和 4 年	令和 5 年	増減数 R 5 - R 4	増減率 R 5 / R 4	増減数 R 5 - R 元 (H31)	増減率 R 5 / R 元 (H31)
外国人 観光客数	276.0	15.6	268.1	+252.6	+1,622.4%	▲7.9	▲2.8%

図表 2-2 外国人観光客数の推移

(単位：万人)



(2) 市場別外国人観光客数の状況

市場別外国人観光客数をみると、令和5年は、アメリカが最も多く368.9千人（+316.2千人）、次いでオーストラリアが240.1千人（+235.3千人）となった。

すべての主要市場で増加しており、オーストラリア、フランス、スペイン、イタリア、カナダについては、大きく順位が上昇した。

図表2-3 市場別外国人観光客数の順位（上位10市場）

（単位：千人）

順位	市場名	平成31 (令和元)年	令和 4年	令和 5年	増減数 R5-R4	増減率 R5/R4	増減数 R5-R元(H31)	増減率 R5/R元(H31)	R4 順位
1位	アメリカ	369.3	52.8	368.9	+316.2	+599.4%	▲0.4	▲0.1%	1位
2位	オーストラリア	227.0	4.9	240.1	+235.3	+4830.7%	+13.1	+5.8%	6位
3位	フランス	184.5	4.4	236.3	+231.9	+5236.6%	+51.8	+28.1%	8位
4位	台湾	264.3	5.1	173.8	+168.6	+3284.9%	▲90.5	▲34.2%	5位
5位	イギリス	198.9	4.5	173.2	+168.7	+3759.5%	▲25.7	▲12.9%	7位
6位	ドイツ	103.1	5.8	158.5	+152.8	+2653.0%	+55.4	+53.7%	3位
7位	スペイン	85.6	2.4	123.2	+120.8	+4983.7%	+37.6	+44.0%	13位
8位	イタリア	68.1	1.9	115.6	+113.8	+6137.1%	+47.5	+69.7%	14位
9位	カナダ	63.4	1.8	80.6	+78.8	+4364.8%	+17.2	+27.2%	15位
10位	中国	169.4	5.2	74.4	+69.2	+1327.8%	▲95.0	▲56.1%	4位

地域別に外国人観光客の割合をみると、令和5年はアジア主要国からの観光客が全体の18.9%、欧米豪主要国からは56.2%、その他が24.8%であった。コロナ前の平成31（令和元）年と比べると、令和5年の地域別外国人観光客の構成比は、欧米豪主要国の割合が高い傾向がより顕著に表れている。

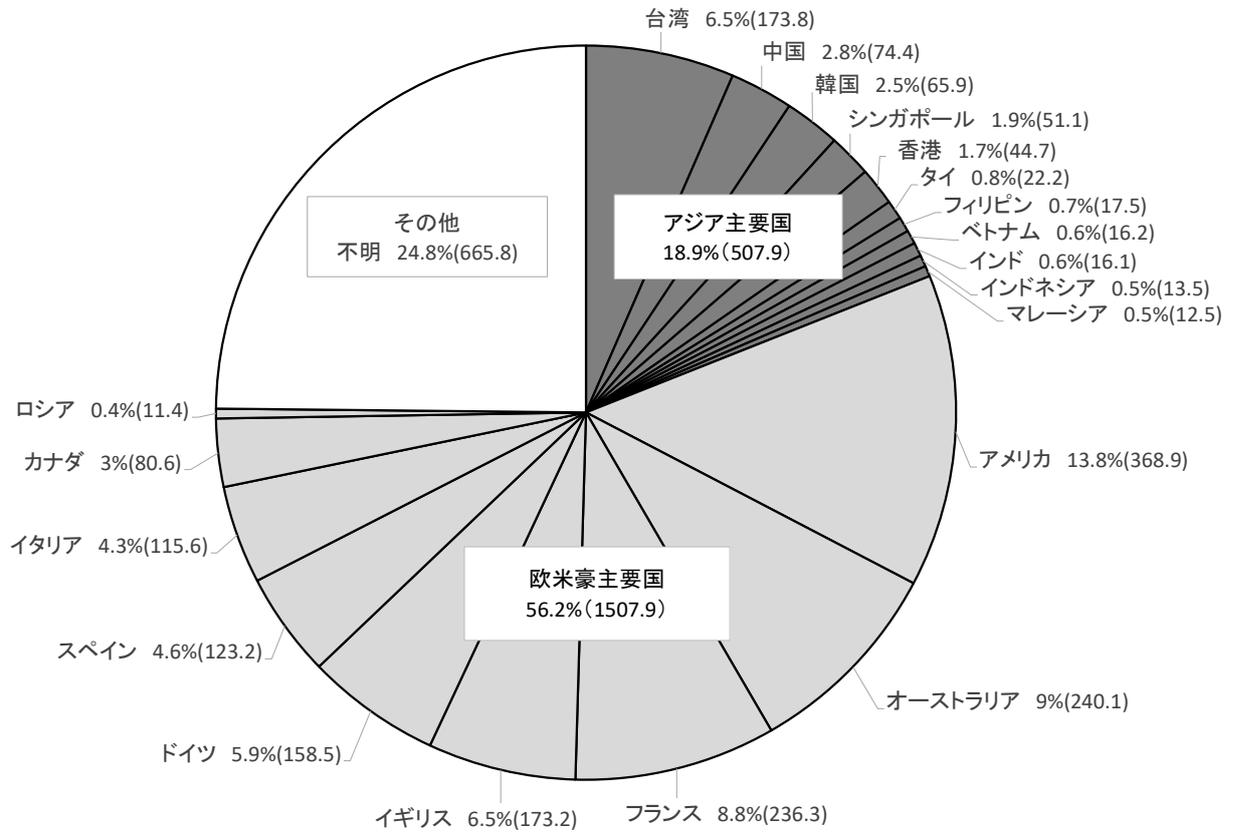
図表2-4 地域別外国人観光客数及び構成比の比較

（単位：千人）

区分	アジア主要国	欧米豪主要国	その他・国籍不明
31（元）年外国人観光客数 （構成比）	794.9 (28.8%)	1,315.0 (47.6%)	650.2 (23.6%)
4年外国人観光客数 （構成比）	33.0 (21.2%)	79.0 (50.8%)	43.6 (28.0%)
5年外国人観光客数 （構成比）	507.9 (18.9%)	1,507.9 (56.2%)	665.8 (24.8%)

図表 2-5 市場別外国人観光客数の割合

(単位：千人)



3 宿泊客数の状況

(1) 宿泊客数の概況

総観光客数同様、全国旅行支援の実施や新型コロナの5類移行による行動制限の緩和、G7広島サミットの開催、県内大型イベントの通常開催、国際線就航便の再開や円安などにより、令和5年の宿泊客数は1,002万人泊で、前年と比べて240万人泊（+31.5%）増加し、うち外国人も103万人泊で、前年と比べて95万人泊（+1228.4%）増加した。

なお、コロナ前の平成31（令和元）年と比較すると7万人泊減（▲0.7%）、うち外国人は27万人泊減（▲20.6%）となっており、コロナ前の水準に戻りつつある。

図表3-1 宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区分	平成31 (令和元)年	令和4年	令和5年	増減数 R5-R4	増減率 R5/R4	増減数 R5-R元(H31)	増減率 R5/R元(H31)
宿泊客数	1,009	762	1,002	+240	+31.5%	▲7	▲0.7%
(うち外国人)	(130)	(8)	(103)	(+95)	(+1228.4%)	(▲27)	(▲20.6%)

(2) 地区別宿泊客数の状況

地区別にみると、宿泊客数が最も多い安芸地区①は、前年と比べて186万人泊多い641万人泊（+40.8%）となった。

なお、外国人宿泊客数については、コロナ前の平成31（令和元）年と比べると安芸地区②のみ4万人泊多い8万人泊（+81.1%）となった。

図表3-2 地区別宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区分	平成31 (令和元)年	令和4年	令和5年	増減数 R5-R4	増減率 R5/R4	増減数 R5-R元(H31)	増減率 R5/R元(H31)
安芸地区 ①	665 (118)	455 (7)	641 (90)	+186 (+83)	+40.8% (+1,209.5%)	▲24 (▲28)	▲3.6% (▲23.7%)
安芸地区 ②	130 (4)	99 (1)	121 (8)	+22 (+7)	+22.1% (+1,237.1%)	▲8 (+4)	▲6.4% (+81.1%)
芸北地区	10 (0)	8 (0)	8 (0)	0 (0)	+1.9% (+733.3%)	▲2 (▲0)	▲16.5% (▲94.5%)
備後地区	171 (7)	173 (0)	202 (5)	+29 (+5)	+16.7% (+1,849.1%)	+30 (▲2)	+17.7% (▲27.9%)
備北地区	33 (0)	27 (0)	30 (0)	+3 (+0)	+12.1% (+217.0%)	▲3 (▲0)	▲8.5% (▲31.8%)

（注）カッコ内はうち外国人

また、宿泊客数の地区別構成比は、安芸地区①が 63.9%で最も高く、次いで備後地区の 20.1%となった。

平成 31（令和元）年から令和 2 年にかけては、安芸地区①の構成比が減少し、その他の地区の構成比がおおむね増加するなど、平準化が進行していたが、令和 3 年から令和 5 年にかけては、安芸地区①の構成比が増加し、その他の地区がおおむね減少している。平成 31（令和元）年と比べると備後地区のみ構成比が増加（+3.1%）している。

図表 3-3 宿泊客数の地区別構成比

（単位：万人泊）

区 分	平成 31（令和元）年 構成比	令和 4 年 構成比	令和 5 年 構成比	増減 R5-R4	増減 R5-R 元（H31）
安芸地区①	65.9% (90.5%)	59.7% (88.3%)	63.9% (87.0%)	+4.2% (▲1.3%)	▲2.0% (▲3.5%)
安芸地区②	12.8% (3.4%)	13.0% (7.6%)	12.1% (7.7%)	▲0.9% (+0.0%)	▲0.7% (+4.3%)
芸北地区	1.0% (0.3%)	1.1% (0.0%)	0.8% (0.0%)	▲0.2% (+0.0%)	▲0.2% (▲0.3%)
備後地区	17.0% (5.7%)	22.7% (3.5%)	20.1% (5.2%)	▲2.5% (+1.6%)	+3.1% (+0.5%)
備北地区	3.2% (0.2%)	3.5% (0.6%)	3.0% (0.1%)	▲0.5% (▲0.4%)	▲0.3% (+0.0%)

（注）カッコ内は外国人

(3) 月別宿泊客数の状況

宿泊客数を月別で見ると、1～3月は全国旅行支援の実施などが影響し、3月は前年と比べて59.0%増となる88万人泊となった。

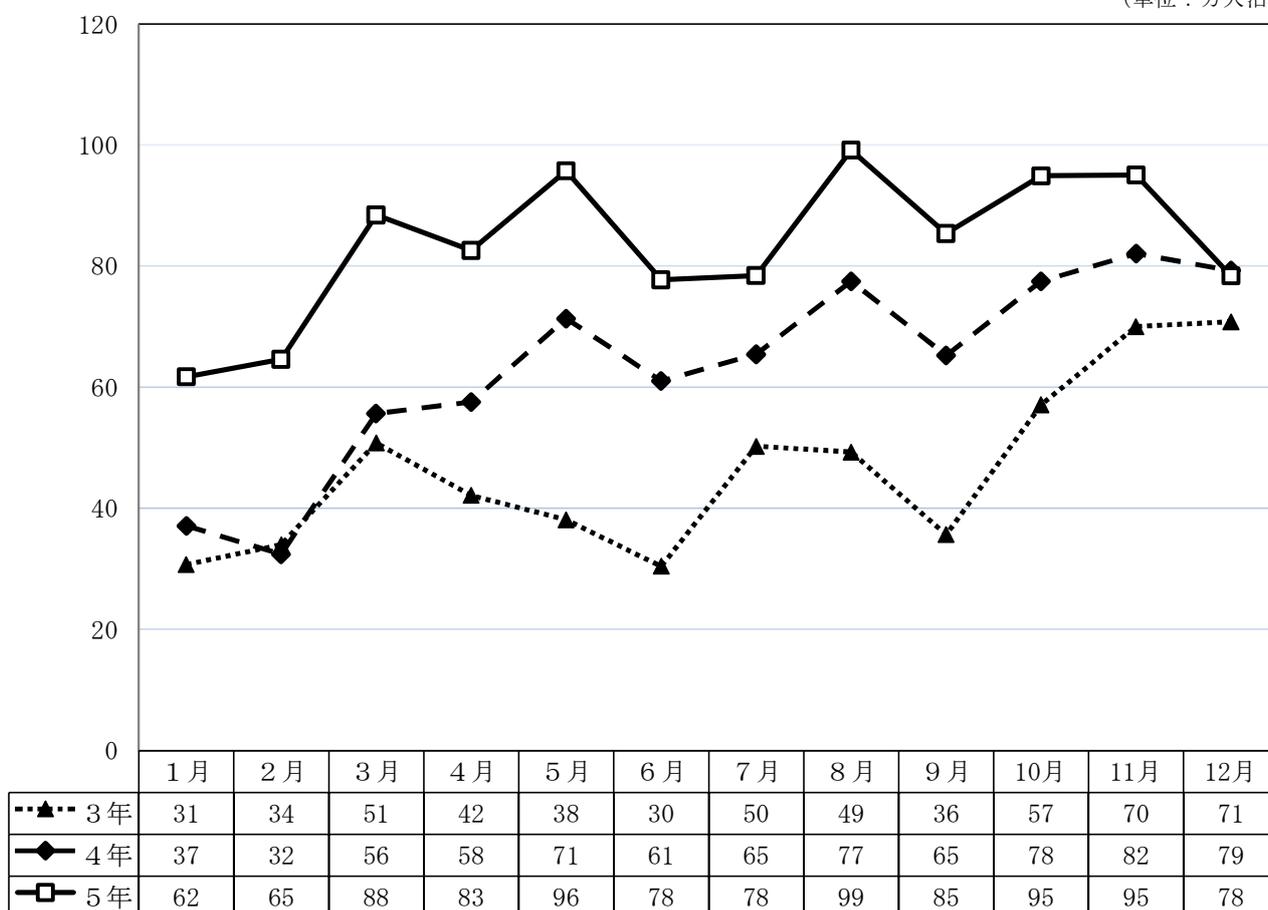
4～5月は、水際対策の終了やG7広島サミットの開催に伴う宿泊需要の高まりから、5月は前年に比べ34.2%増（96万人泊）となった。

6月以降は、新型コロナが5類感染症に移行して初めての夏休み、秋の行楽シーズン、国際線就航便の回復、円安などの影響により、外国人観光客を中心に増加し、8月には前年に比べ27.9%増（99万人泊）となった。

11月からは県による宿泊助成等の観光キャンペーンを実施し、前年と比べて11月は15.8%増（95万人泊）したものの、12月は1.1%減（78万人泊）となった。

図表3-4 月別宿泊客数の推移

(単位：万人泊)

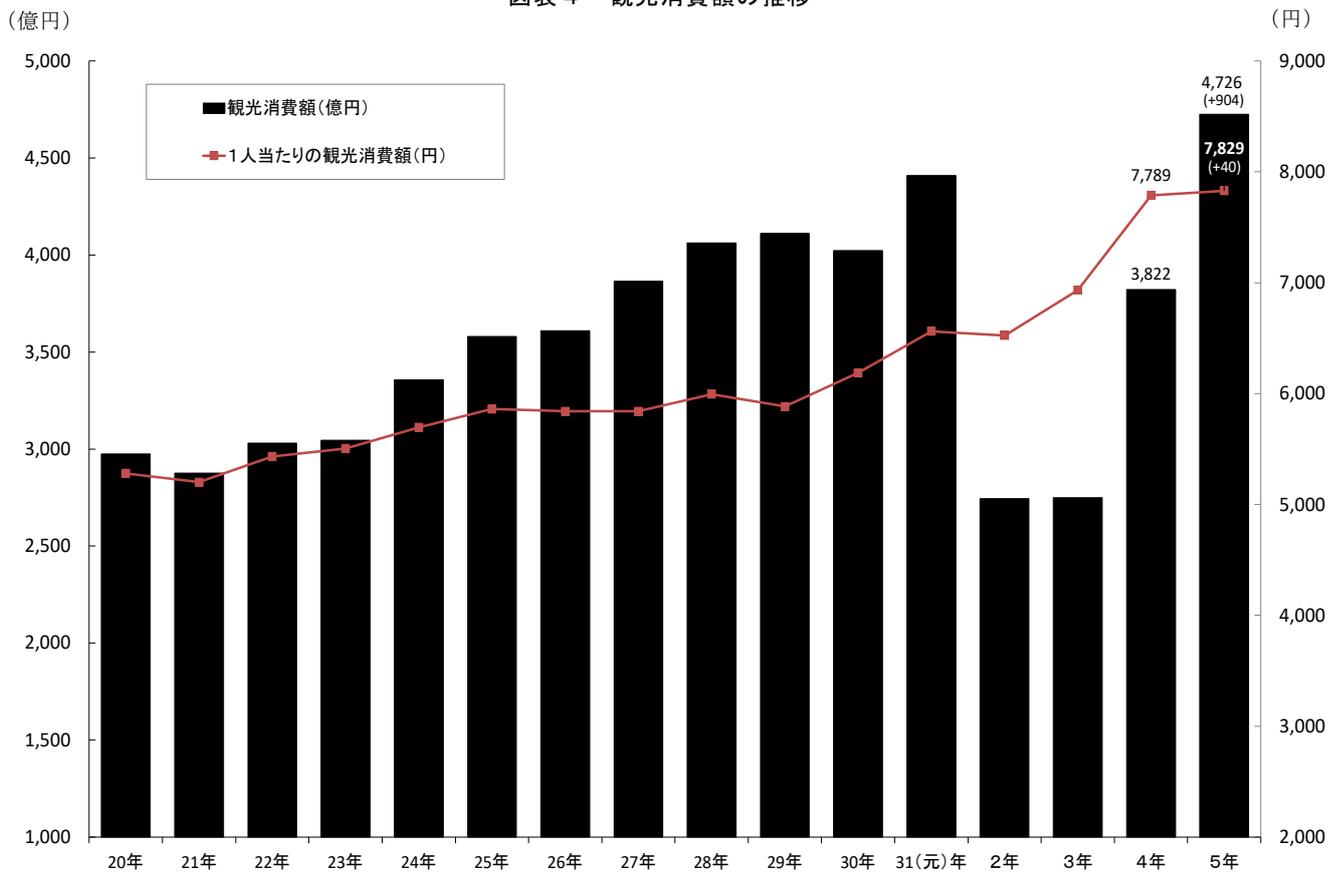


4 観光消費額の状況

令和5年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、土産代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は4,726億円で、前年に比べて904億円（+23.6%）増加した。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額^(注)は7,829円で、前年に比べて40円（+0.5%）増加した。前年から継続する物価高による飲食代、土産代等が高騰している中、旅行自粛が続いたことの反動による旅行消費意欲の高まりや、遠方からの観光客数や宿泊客数が増加したことなどに伴い、観光消費額の総額及び観光消費額単価とも過去最高となった。

図表4 観光消費額の推移



観光消費額(億円)	2,974	2,876	3,030	3,045	3,356	3,580	3,610	3,865
1人当たりの観光消費額(円)	5,280	5,201	5,433	5,504	5,695	5,860	5,840	5,840
観光消費額(億円)	4,062	4,112	4,023	4,410	2,745	2,750	3,822	4,726
1人当たりの観光消費額(円)	5,994	5,884	6,185	6,562	6,525	6,933	7,789	7,829

(注) 1人当たりの観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

Ⅲ 観光客数統計表